

# PREVENTION No. 163

平成18年3月16日開催

## 三井化学におけるアルコール関連問題の取り組みと事例紹介

三井化学株式会社 本社健康管理室 魚谷 芙紗恵・横尾 真由美

### 1. 当社の取り組み

#### <会社概要>

石油化学製品などの研究開発・製造・販売を主として行っている。

社員：9180人（男性8350人、女性830人） 平均年齢：43.9歳

事業所数：本社1、支店3、研究所1、工場5

#### <基本理念>

労働衛生規則(社則)で「社員の健康は、会社の健康に直結する」を基本理念とし、産業医の権限や職務についても規定している。

#### <労働衛生体制>

毎年、健康管理を含む全社の労働衛生の目標・計画を策定し、それに基づき各事業所ごとに目標・計画が策定され、計画に沿って実施されている。また、年2回、労働衛生監査が行われ、各事業所の課題達成度を評価し、未達成事項があれば改善指導される。

なかでも、メンタルヘルス施策は、全社の重点課題として、00年度から全社的に展開している。

#### <アルコール関連問題への取り組み>

##### (1) 本社での取り組み

本社では、04年度の重点課題の一つとして、アルコール関連問題への対応力強化を上げ、カウンセラー・保健師の2名が、久里浜アルコール関連問題予防センターでの実践講座を受講。

05年度より、新入社員教育に、アルコール教育を導入している。アルコール教育は、アルコール関連クイズ・アルコールパッチテスト・アルコール依存症講義で構成され、新入社員の好評を得た。06年度からは教育時間の延長が認められた。

その他、ライン管理者・新任管理者等の階層別教育、カウンセリング体制の充実、WEBを活用したメンタルヘルスEラーニングシステムの利用開始(04年度より)、ストレス度調査によるハイリスク群への面接(03年度より)、職場ストレス低減計画展開(05年度より)、入社後2年目までの社員全員の産業医又はカウンセラーによる面接実施(半年に1回)、大卒新入社員全員にEラーニング「職場のアサーション(コミュニケーションスキルの一種)」の学習展開(05年度より)等に取り組んでいる。

##### (2) I事業所での取り組み

I事業所では、各職場の健康づくりを推進するヘルスリーダーが「健康づくり年間計画」に基づいて、自職場の健康づくりを進めている。「健康づくり年間計画」では、忘年会シーズン前の11月を「お酒」の強調月間として、『お酒との上手なつきあい方(アルコールパッチテスト実施)』の健康教育を実施する他、パンフレットの配布、ビデオの貸し出し等を実施している。

また、I事業所の健康増進は、定期健康診断時及び健診後の保健指導が中心となっている(定期健診：2回/年 問診：全員)。定期健診事後フォローとして、リーフレット(アルコールと肝臓等)・再検査・要保健面接(看護職による保健指導)・要産業医面接を確実に実施している。特に、年に2回の問診は、社員全員に看護職が会うことにより、問題飲酒予備軍への指導も行える場として、重要性が増している。

## 2・アルコール依存症のカウンセリング（月1回、31回現在）事例

- (1) M氏・男・50歳代後半・有名私立大学大学院卒
- (2) 職業：関係会社転籍出向・専門職。
- (3) 来談の経緯：定期健康診断後の産業医面接より紹介
- (4) アルコール依存症治療歴：① 過去3回アルコール性肝障害で緊急入院をしており、一度は集中治療室に収容されている。現在は、3度目に入院したSY大学病院の内科で高血圧症を、精神科でアルコール依存症を治療中、抗酒剤内服中。月1回血液検査。② それ以前は、当社A事業所および社外医療機関で肝機能障害・高脂血症・高尿酸血症・初老うつ状態・高血圧症の治療を継続・中断を繰り返しているが、年次が曖昧。
- (5) カウンセリング歴：①XX年以前にK大病院で、月1回3年間無料のカウンセリングを受けているとの記録あり。妻はカウンセリング拒否。②XX年12月～YY年9月の間、A事業所に派遣されている社外臨床心理士によるカウンセリングを受け、非常に良かったとの感想。
- (6) 断酒会：3回目の入院先で入会するが続かず。
- (7) 飲酒動機：ストレスの解消
- (8) 禁酒動機：多量飲酒により確実に体調が悪くなる。
- (9) 禁酒と飲酒：月～木は抗酒剤を服用し禁酒、金～日は缶酎ハイ 500ml を4缶（コントロールが出来ている時の量）飲酒。
- (10) 飲酒歴と動機：①最初の飲酒は18か19歳。②大学3年次、所属クラブで好きになった女性を同窓生と奪い合い、破れて酒量が急増。③大学院修士・博士課程とも教授から馬鹿にされ関係不良。連続多量飲酒の習慣が定着する。
- (11) 生育歴：①飲んだ時はにこにこ笑って飲まない時は気難しい父と、料理上手で優しい母と、仲の良い弟妹の幸せな家庭。②13歳時父親脳出血にて急死、生活一変。心が荒れ始める。③高校時代は、些細なきっかけで弟妹に暴力をふるい始める。④大学時代は前述のとおり。⑤入社については、大きな会社でやっていけるか悩んだが、母の「男はバイタリティーだ」の言葉で決心。
- (12) 入社後：①初めての職場および単身赴任時代は仕事も家庭も充実して、幸福感あり。②40歳で現職場に出向で出された時、主流から外れたと認識。③現職場は大多数が本体からの出向者で、注文を請け負う自己完結型の仕事。先輩が仕事を独り占めするという嫌がらせあり。出来高払いのため成果が上がらない。④現業に直結する高位資格取得。定年後の雇用および独立が可能圏に入る。
- (13) 結婚生活と家族：①見合い結婚。既に認知症になっていた母親との同居を妻が拒むも2年同居。争いの毎日に、第2子妊娠中の妻の頬を平手で数回たたく。母親と別居・その後施設入所などさせるが、妻は1度も介護をせず、本人が一人で介護。妻を許せない感情持続。現在は料理手抜き・会話必要最小限にて、本人定年後に離婚を考えている節あり。②息子高校生時、好きなおかずを皆食べられたことに立腹、拳骨で頭をなぐった。以来家族で食卓囲むことなし。③大卒後就職・1回転職後より、少し、話や頼みごとに応じてくれるようになる。④娘が中学低学年時、生意気なことを言ったので、拳骨で殴る。以来一度も「お父さん」と呼んでくれず、今年決まった就職先も教えてくれない。⑤家族療法に参加してくれる家族は誰もいないと思っている。
- (14) 今後：①断酒するかどうかは分らない。②妻とは修復できないかもしれない。離婚なら家を与える。③子供には詫びて関係修復したい。④定年後も今の仕事を続けたい。
- (15) カウンセリングの効果と今後の課題  
効果：①断酒は出来ていないが、飲酒の機会と酒量が大幅に減る。②話すことによりストレスが軽減、眠れるようになり、睡眠導入剤・抗鬱剤が不要となる。③自己評価が低くマイナス思考だったが、プラス思考が可能となる。④問題への直面化（離婚になると生きていけないと言っていたが、生きるための具体策が語れる。など）が可能となる。  
課題：①家族療法をはじめとする心理療法へのリファラーの可否。②カウンセラーの退職する3回目をカウンセリングの一区切りとするかリファラーか。